

Kandai K Style

2016.11 Vol.454
関西大学通信



第39回 関西大学統一学園祭 & キャンパス案内

第39回関西大学統一学園祭
実行委員長・副委員長の皆さん

130
KANSAI
UNIVERSITY

第39回関西大学統一学園祭& キャンパス案内

11月3日(木・祝)から6日(日)の4日間、第39回関西大学統一学園祭が開催されます。今号では、学園祭実行委員長からのメッセージと初めて訪れる方々のために関西大学の見どころを紹介します! 初めてお越しいただく方も学園祭とともに、おすすめスポットにもぜひお立ち寄りいただき、関西大学のキャンパスをお楽しみください。

野球専用グラウンド [KAISERS BASEBALL FIELD]



千里山北グラウンドを大幅改修し、8月に野球専用グラウンドが完成しました。学生の課外活動や体育会野球部の拠点として活用されています。広さも十分で、青々とした芝生がとても気持ち良く、天気の良い日には最高のロケーションです。



第4学舎

システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部

総合学生会館 メディアパーク 凜風館



千里山キャンパスメインストリートにある凜風館は学生が昼食をとったり、談話したりと活気溢れるスペースで、いつもたくさんの学生でにぎわっています。一般の方も利用可能ですので、お疲れの時はくつろぎの場としてご利用ください。

高松塚古墳壁画再現展示室



高松塚古墳壁画の発掘作業は、1972年に末永雅雄名誉教授の指揮のもと、網干善教名誉教授と本学学生を中心に行われました。この再現展示室は、極彩色の四神図などを原寸大の精緻な美術陶板に焼き付け、よりリアルに再現しています。

第1学舎

法学部、文学部、政策創造学部、外国語学部

あすかの庭 ステージ

簡文館(関西大学博物館)



博物館のある「簡文館」建物は、1928年に図書館として建てられました。のちに建築家・村野藤吾設計の円形部分が増築され、2007年3月に関西大学の建物で初めて登録有形文化財に指定されました。創立130周年記念展示会「関西大学のちから」を開催しています。

悠久の庭 中央ステージ

経商工社 ステージ

第3学舎

社会学部

総合図書館

1985年に開館し、蔵書数は213万冊以上。図書館のウェブサイトから書籍だけでなく、国内外の文献情報の検索も可能。大学図書館としてはトップクラスを誇る施設です。学生だけでなく、学外の方も条件を満たしていれば利用が可能です。



は模擬店エリア

第2学舎

経済学部、商学部

今年の統一学園祭のテーマは
"RE130RN"。生まれ変わったという意味のREBORNの「BO」の箇所を「130」という数字に変え、今年11月で関西大学が創立130周年を迎えることにちなんでテーマになっています。一人でも多くの関大生に参加してもらい、来場者の皆さんに関西大学の学園祭でしか味わえない感動・達成感、非日常などの面白さを感じてほしいと考えています。そのためには、まずは実行委員が学生の要望をくみ取り、かなえることが皆さんの満足感につながると思っています。もちろん中には難しいこともあります。来場者の方に楽しんでいただかないと意味がないですし、時間をかけて取り組んでいる学生や実行委員のためにも、できるだけその願いをかなえたいです。実行委員の数だけでなく、模擬店・企画数など全てにおいて関西最大級、西日本最大級の学園祭といっても過言ではないと思います。集客数も昨年の約2倍を目指し、各学部のカラーで、工夫を凝らした企画が満載! 見どころは全てです。4日間いつお越しいただいても楽しめますし、日によって違う楽しさがある学園祭になっています。皆さんに楽しんでいただくために1年間準備をしてきました。最後まで学園祭を楽しんでください。

統一学園祭実行委員会
委員長 久保俊一朗さん(社会学部3年次生)





教育業界 / 教諭

関西大学初等部

金本竜一さん

関西大学第一高等学校出身
2002年法学部卒業



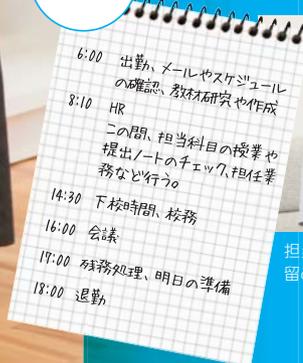
子どもが持つ可能性を最大限に。
そのためにできることを考えます。

JR高槻駅から、程近くの高槻ミュージックキャンパスにある関西大学初等部が、金本竜一さんの職場です。現在、金本さんは初等部1年生30人の学級担任を務め、子どもたちの日々成長する心と体のサポートをしています。大学在学中から、「人が好きで、人と直接関わりたい」と考えていた金本さんは、塾講師のアルバイト経験を通じて、「教師は生徒と互いに学び合い、共に成長できる仕事ではないか」という一つの答えにたどり着き、教師を目指すことを決心。中学校・高等学校の国語の教員免許を取得し、晴れて高知県の中学・高等学校で金本さんの教師生活がスタートしました。その後、小学校現場にも興味を持ち、奈良県の小学校で教鞭を執ることに。11年間の教師生活を経て、昨年度、現在の職場に着任されました。

金本さんは、「元気いっぱいの子どもたちに負けずに頑張っています」と日々の担任業務について話すなか、今の子どもたちに対して、「道具が増え、恵まれた環境で育ったことで、想像力や発想力が弱くなっているのではないかと疑問を感じたことがあるそうです。その思いから、子どもたちに一方的に答えを教えるのではなく、自由に考えてもらえるよう授業では小さな工夫をたくさん盛り込んでいます。「いつまでも子どもの目線で物事を見ることを忘れず、何を考えているのかを察することのできる教師が、私の目指す将来像ですね」。

大学でさまざまな人や価値観と出会うことで、人付き合いや社会での生き方を学んだ金本さん自身の経験から「人とつながりをいつまでも大切に」、そして社会人の先輩として「常に学ぶ意識を失わず、自分の行いを振り返り反省する、謙虚な姿勢を持ち続けてほしい」と後輩たちに向けてメッセージを送ってくれました。

ある1日のスケジュール



担当科目の教材や授業中に使うiPad、生徒のことについて日々書き留めるノート、採点時に使う赤ペンが必需品。

Teacher

VIVA!!

学び易



総合情報学部

「専門演習」

研谷紀夫 准教授

デジタル化された文化資源のあるべき姿を探る。

多様化するデジタル文化資源の特徴と課題を調査し、分析結果から考察します。

近年、さまざまな文化資源がデジタル化され、インターネット上で公開・配信されています。デジタル化の対象は、書籍や美術・工芸品のほかメディアと呼ばれる映像や音声など、その対象範囲はますます広がっています。こうしたデジタル化された文化資源は「デジタルカルチュラルヘリテージ」などと称されていますが、研究分野としてはまだまだ新しい領域です。

研谷紀夫准教授の専門演習（ゼミ）では、今あるデジタルコンテンツに目を向け、人文系の視点から、「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」制作・公開あるいは利用されているものなのかを明らかにするとともに、そこに格納された絵画や映像などのビジュアル資料を、自らの視点で分析していくスキルを身につけていきます。

ゼミでは、4年次の卒業研究に必要な基礎となる知識や研究手法を身に付けることを目標の一つにしていますが、「このゼミを通して、昔の文化資源にも興味を持ってほしい。そして、名作を良いものとして理解するだけでなく、客観的な視点から批判的に考察する姿勢も身に付けてほしい」と研谷准教授は言います。なぜなら、名作と言われる作品にも、史実から見るとつじつまが合わないところや、作られた時代の文化状況や思想背景を受けて成立しているものが多いからだそうです。

「学生には、アクティブになって、さまざまな文化に触れてほしい」と言う研谷准教授は、課題活動を積極的に取り入れています。毎年ゼミの企画で、企業の博物館や京都訪問など、幅広いイベントを実施しているそうで、「経験したことから、自分なりの新しい発見や気づきが増えると、さらに良いですね。そのような姿勢は、社会に出てからでも役に立つと思いますから」と、学生への思いを語ってくれました。



柏原世里菜さん(3年次生)

興味ある広告について研究できるのが、このゼミを選んだ理由です。将来は、広告や広報の仕事に就きたいと思っています。先生はとても優しく、専門外のことにも丁寧に指導してもらえるのがうれしいです。



平塚拓也さん(3年次生)

このゼミはイベントが多く、ほかのゼミ生と仲良くなれる機会がたくさんあるのが魅力の一つですね。授業では、自分の興味があることを先生が取り上げてくれるので、卒論に向けてやりたいことを明確にできるのも良いと思います。



総合情報学部

研谷紀夫 准教授

時代やジャンル・分野などの境界を超えて、さまざまな文化に触れてみたいという好奇心旺盛な学生には、このゼミはお勧めだと思います。その機会には講義の中でもたくさん用意していますので、「自分なりの新しい視点や考え方を生み出したい」という熱意のある学生にも、ぜひ来てほしいですね。





政策創造学部4年次生

林 青空さん

感じたことをありのまま歌っています。



ライブ風景の様子

【オフィシャルWEBサイト】

<http://www.music-scene.jp/hayashi-aozora/>

今回は、林さんからのご紹介
で水田伸明さん(政策3)
が登場。お楽しみに！

「私は、歌うことが大好きなんです」。満面の笑みでそう語るのは、シンガーソングライターとして活動している、政策創造学部4年次生の林青空さん。以前はバンドを組んでいたが解散したため、2014年2月よりソロ活動を開始し、現在は大阪を中心としたライブハウスで月に2~3回ほどライブを開催しています。歌手になりたいと思ったきっかけは、子どもの頃にテレビ画面に映し出された歌手の姿に憧れ、「私もいつかあの場所で歌いたい」と強く願ったことだそうです。

今年でソロ活動3年目を迎える林さんですが、それ以前は内気で、自分の世界にこもりがちな性格だったとか。しかし、さまざまな人たちとの出会いを通じて、自分の意見を発信することの大切さに気付いてからは、何事にも積極的にになりました。そして、「多くの人に助けられてきたからこそ、今の私があります」と、“人とのつながりの大切さ”にもまた気付くことができたそうです。「内気な私でしたが、今はいろいろな人と一緒に活動するのがとても楽しい」と話します。

林さんは、これまでにシングルを2枚、アルバムを1枚制作し、「林青空個人として」、「一人の女の子として」、「一人の大学生として」など、その時々的心境を客観的に見て、歌作りのテーマを設定。また、曲の元となるフレーズ・メロディーは、いつも持ち歩いているスマートフォンに思いつくとすぐに録音します。

日々感じる素直な気持ちを歌詞にしている林さんですが、歌作りを自分でするようになってから、前向きな性格になれたとも言います。「良いときも、悪いときも、全ての経験が作詞・作曲に生かせるのが前向きになれた理由として大きいですね」。

昨年末、大阪・梅田クラブクアトロで開催したワンマンライブでは、自身過去最高の300人を動員しました。「もっともっと大きな会場で、多くの人たちに私の歌を聴いてほしい」、さらに「ソロだけでなく、バンド編成での活動にもチャレンジしたいです」と林さんは今後の目標について語ります。

「今やりたいことを、全力でトライしてほしい。その先には、次の舞台が待っているはずですから」と後輩にメッセージを送ってくれた林さんは、自身もさらなるステージへ上がるために、今日も歌い続けます。



Aozora Hayashi

関大トピックス

「大阪の歴史・文化魅力体験プロジェクト」を 開催

関西国際空港で10月18日～31日、関西国際空港をはじめ民間企業の協力を得て、大阪の歴史と文化を体験できるイベントを開催しました。これは「なにわ大阪研究センター」の取り組みの一つで、本学の研究力でデジタル技術を応用した大阪の文化遺産のデジタルコンテンツを開発し、国内外の来阪者に大阪の歴史・文化の魅力体験してもらうことを目的としています。

世界初となる8Kディスプレイでの『平家物語絵巻』超高精細デジタル画像の公開や『国宝 太刀銘吉房』の拡大出力による巨大日本刀フォトスポット、『浪花及澁川沿岸名勝図巻』のレプリカなどを展示。また、エコール辻 大阪(辻調グループ)協力のもと、大阪天満天神の水でひいた和食だしを無料提供する「WASHOKU DASHI BAR」も実施し、連日多くの人で盛り上がりました。



新聞六社トップによる パネルディスカッションを開催



梅田キャンパスで10月22日、関西大学創立130周年と梅田キャンパス開設を記念したイベント「新聞六社トップによるパネルディスカッション」を開催しました。

各社のトップクラスが経営・編集方針を越え、これまでにならぬ形で集結した本イベントは、在京阪神の新聞6社とマスコミ業界で活躍する本学OB・OG組織の支援・協力を得て、学生の幅広い社会的見識の向上に役立つことを目的に開催。関西から考える新聞の“これまで”と“これから”をテーマに、関西地区における新聞メディアの果たすべき役割について、現在から未来への展望が議論され、集まった約300人の学生・生徒らは熱心な様子で聴講しました。

関西大学創立130周年記念展示会 「関西大学のちから」を開催中

千里山キャンパス関西大学博物館と大阪歴史博物館の2会場で10月5日から、関西大学創立130周年記念展示会「関西大学のちから」を開催しています。

この展示会では、「関西大学のちから」を象徴する本学所蔵の名品を紹介。関西大学博物館では「関西大学のちから～伝統への自信 未来への考動～」をテーマに、本学創立者ゆかりの品から130年の軌跡ならびに、江戸時代に大阪で活躍した画壇の絵画等を展示しています。大阪歴史博物館では「関西大学蔵 本山コレクションの精華」をテーマに、大阪毎日新聞社社長の本山彦一氏が蒐集した重要文化財や重要美術品を中心とする考古資料を、学外で初公開しています。



【期間】10月5日～11月14日(月)まで

【会場】第1会場: 関西大学博物館 第2会場: 大阪歴史博物館

※入館料等詳細は、特設サイト

(<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/130anniversary/>)をご覧ください。

Attention 大学からの重要なお知らせ

新理事会が発足

任期満了に伴う役員の変更により、10月1日開催の臨時理事会において、理事長に池内啓三氏、常務理事に安部善博氏、北田伸治氏、矢野秀利氏が選任されました。

また、常任理事には、土橋良一氏、寺内俊太郎氏、前田裕氏、良永康平氏が選任されています。

任期は2016年10月1日から4年間です。



理事長 池内啓三氏



常務理事 安部善博氏



常務理事 北田伸治氏



常務理事 矢野秀利氏

よもやまばなし

関大人 四方山話 ◆「関西大学創立130周年を迎えて」



関西大学校友会会長 寺内俊太郎

母校とご縁は、小学校1年生の遠足がきっかけで存在した千里山遊園地だったことから始まります。工学部金属工学科に入学し、博士課程までの9年間、母校で学園生活を学園紛争も含めて色々な立場で謳歌させていただきました。卒業後は、父経営の金属工業に就職しながら、今では当然のごと

く叫ばれる産学連携活動(現在の科学技術振興会)を先取りした事業活動を行っています。40代後半は校友会活動に目覚め、地域支部の役員・代議員・常議員・校友会会長を拝命し、法人にあっては評議員、監事、理事、常任理事を歴任しています。会社経営と共に進めた永年の研究活動に対し、平成24年、68歳の春には母校から博士(工学)号を授与され、現在も金属関係の国際会議に出席し、研究発表を続けております。

今、母校関西大学創立130周年の記念すべき瞬間を皆さんと共に迎える感動と感激を共有して、熱心で学生生活を謳歌し、熱き思いの校友となって皆さんをお迎えし、そして全世界に羽ばたいてください。



関西大学教育後援会会長 山本和良

創立130周年の長い歴史の1ページに、私も教育後援会も存在します。昭和22年以来、父母や保護者の立場で、皆さまがより良い大学生活を送れるように、大学と協力しながらさまざまな活動をしております。130周年記念事業でも、皆さまの通学が少しでも楽になるようにとの思いで、8月末に完成した西門のエスカレーターを寄贈させていただきました。

教育後援会には「わが子の母校はわが母校」というスローガンがございます。関大は私の母校ではありませんが、今では関大に愛着を持っております。学歌も歌えるようになりました。皆さまは、いずれは社会に出て、さまざまな分野で活躍されると思います。その際は自分の周りで起こる事を、他人事として見るのではなく、他人の事は自分の事、共に考え、共に行動し、誰からも尊敬され、信頼されるリーダーになっていただきたいと思っております。明日の日本社会が、関大卒のリーダーでいっぱいになる事を願っています。私自身も卒業のめどが立っていませんが、皆さまは、まずは卒業目指して学業に頑張り続けていただきたいと思います。

編集後記

130年前、関大が誕生したその年に、ガソリン車が発明されました。この話、なんだかワクワクしませんか? そんなワクワクがいっぱい詰まった特別号をお届けします。ワクワクする気持ちは、未来を生み出す力です。これまで世界を形作ってきた境界が失われつつあるいま、私たちはどんな未来を創造できるのでしょうか? 自分には何ができるのか、この機会に私も、関大人のひとりとして考えてみようと思います。ご一緒にいかがですか? (広報委員長・総合情報学部准教授 西田晃一)

学部・研究科トピックス

法学部 / 法学研究科

もう一つ別の「学祭」

11月、皆さんが心待ちにしているのは、なんともいっても学園祭でしょう。さまざまな展示、模擬店、音楽、ダンスなどで大いに盛り上がってください。ところで法学部には、もう一つ別の「学祭」があります。今年で第5回目を迎える、法学部政治学系ゼミ研究報告会のことです。学生が主体となってゼミ内での普段の研究発表を公表し、教員も交えて活発な議論が展開されます。学びの祭典。まさにこれぞ真の「学祭」！今年も11月16日(水)午後千里ホールで開催です。誰でも参加可。乞うご期待!

(坂本治也教授)

文学部 / 文学研究科 東アジア文化研究科

KUワークショップの開催

大学院副専攻EU-日本学教育研究プログラムでは、9月13日から8日間、KUワークショップを開催しました。ヨーロッパ3カ国からの院生と本学の院生による合同研究発表会・フィールドワークが行われました。新しい日本学研究に向けて議論の輪が広がりました。



(原田正俊教授)

経済学部 / 経済学研究科

計量経済学へご招待

130年の間に技術革新に起因する景気の波は3つほど現れます。これは約50年周期で景気循環が起こる「コンドラチェフの波」の概念によります。近年、ビッグ・データやモノのインターネット(IoT)、人工知能(AI)といった言葉が注目を集め、これらが世界経済を今後けん引していくことでしょう。わが経済学部では統計・情報処理関連科目が数多く提供され、実社会で役立つデータ処理のスキルを身に付けることも可能です。創立130周年を機にそうしたスキルに親しみながら経済学を学んでいきましょう。

(副学部長 菅田一教授)

創立130周年を記念して全学部・研究科と専門職大学院からさまざまな取り組みやメッセージをお届けします。

商学部 / 商学研究科

未来志向の商学部を目指して

商学部は、創設以来、実学教育を学部教育の根幹と考え、国際化・情報化の波に対応でき、かつ財務・会計を理解できるビジネスパーソンの育成に力を注いでいます。商学部で学んだ学生の多くはビジネスの世界に入っていきますので、カリキュラムでは、ビジネス的なものの考え方とともに、それに必要なアカデミックな視点を示しています。1906年に商業学科として誕生した商学部も110年を迎える記念年です。今後も伝統を守りながら、常に新しい流れにも調和できるようにしていきたいと思えます。

(学部長 乙政正太教授)

社会学部 / 社会学研究科

50年史「座談会」を開催

社会学部は2017年に設立50周年を迎えます。現在、50年史を編纂中です。その一環として、定年退職された先生方をお迎えし、座談会を行いました。設立時の苦労はもとより、軌道に乗せ、外れないようにし、あるいは、軌道を変えようというたゆまない努力を拝聴しました。良い教育を行い、良い人材を輩出するという熱意が今を作り出しているのでしょうか。大学の130年、社会学部の50年、人々の日々の研さんが積み重なったものであるということ肝に銘じ、伝統を継承していきたいです。

(舟場拓司教授)

政策創造学部 / ガバナンス研究科

梅田キャンパスオープンに際して

この10月に北区鶴野町にオープンした梅田キャンパスでは、さまざまな事業が予定されています。全学的には、会員制で企業人をつなぐ異業種交流サロンが開設されたり、また起業を支援するプログラムも組まれています。加えて、社会人の「学び直しプログラム」(文部科学省・履修証明プログラム)として生涯学習の機会も提供されます。ガバナンス研究科では、一部の講義を梅田で開講するなど、多様なニーズに応じた学習機会の提供を行っており、幅広い人材育成を目指しています。

(副学部長 石田成則教授)

外国語学部 / 外国語教育学研究科

中央アジア・アメリカ大学とのクロス留学開始

中央アジア・アメリカ大学はキルギス共和国にある大学です。クロス留学ではアカデミック言語は主に英語、日常生活は主としてロシア語で過ごします。ロシア語のクロス留学は、中国語、朝鮮語に続き3つ目のクロス留学先です。「二言語を同時に学ぶ」という事は非常に無謀に聞こえるかもしれませんが、実は大人の言語学習においては、子供とは違い相乗効果が期待でき、むしろプラスの効果もあるという研究結果もあります。皆さんも、ぜひ二言語習得にチャレンジしてください。

(植木美千子准教授)

人間健康学部 / 人間健康研究科

科学の目で見た体力診断

2016年7月31日に開催されたサマーキャンパスで、本学部の運動処方実習などの授業で使用する実験室の機器を用いて体力診断を行いました。来場者の中から希望者の方に体験してもらい、「有酸素性能力」を科学的に測定し「適度な運動強度」を検出する様子を実演解説しました。



(弘原海剛教授)

システム理工学部 / 理工学研究科

大学は130周年、節目の年を迎えています。大学は過去を振り返り、先輩方の足跡をたどり、将来を見据えています。学生諸君も、それぞれの立場で今立ち止まり、入学式を思い出してみてください。あのときの高鳴りと専門知識への憧憬は続いていますか。多くの経験、体験をして、専門知識ばかりでなく、今自分自身の成長を感じますか。ぜひ、それぞれの立場で振り返り、今一度新たな気持ちになり、残りの大学生活がより有意義になることを願っています。

(学部長 田貫佳郎教授)

環境都市工学部 / 理工学研究科

これまで、環境都市工学部は理工系3学部の中で、町づくりをコンセプトとして、「人と環境が融合する新しい町空間の創生と再生」を目標に、教育・研究が活発に行われてきました。また、創立130周年を迎えた今、現代社会の新たな問題である交通、都市環境、環境保全、気候変動など多くの社会問題に対して、自ら解決できる能力を有する、技術者・研究者のさらなる育成のために邁進していきます。今後も開かれた研究環境の中で、お互いの研究分野を融合した新しい研究領域に挑戦していきます。

(学部長 山本秀樹教授)

化学生命工学部 / 理工学研究科

2007年4月に発足した化学生命工学部が2016年度で10年目を迎えました。「これまでになかった『もの』を発見・創造し、人々の暮らしやいのちを守る」ことを目標とした「ものづくり」を軸にした教育・研究活動を進めてまいりました。それらの活動は花を咲かせ、果実を結び始めています。更なる10年は、果実からの種をさらに育てるとともに、教育・研究のグローバル化を目指した活動を積極的に進めていきます。海外拠点大学への短期留学の実施、教育プログラムの改革(クォーター制の導入など)などを予定しています。化学生命工学部の教育・研究活動の今後の発展を期待していただければと思っております。

(学部長 池田勝彦教授)

総合情報学部 / 総合情報学研究科

就職活動メイク実践講座を実施します

12月7日(水)に学部主催行事の「就職活動メイク実践講座」を実施します。対象は、総合情報学部3年次生以上の女子学生です。講座の前半は、企業講師によるマナーや身だしなみに関する講義が行われます。後半にはメイク実習があります。参加者は、配布されたメイクサンプルで、プロのメイクアップアーティストからアドバイスを受けながら、就職活動向けのメイクを学びます。定員50人の事前申込制ですので、受講希望者は申し込みをお早めに!

(学生主任 谷本奈穂教授)

教育推進部

考動人の育成を目指して

教育推進部では、本学にアクティブ・ラーニングが浸透することを願って、学生の学習が主体的、活動的なものになるような知見や情報の提供・共有あるいは創出に尽力しています。特に、平成26年度に文部科学省大学教育再生加速プログラムに採択された「21世紀を生き抜く考動人 Lifelong Active Learnerの育成」において、LA(Learning Assistant)の活用と育成を精力的に継続するとともに、交渉学を大きな柱とした取り組みにより、創造的な思考と責任ある行動を実践していく社会人の基礎力の涵養を目指しています。

(教育開発支援センター副センター長 三浦真琴教授)

社会安全学部 / 社会安全研究科

専門演習発表会を開催

本学部では、3・4年次の2年間を通じて卒業研究を行います。ゼミ配属後半年を経過した10月19日、各ゼミから選抜された3年次生が専門演習発表会に臨みました。教員からの厳しい質問



や温かい励ましを糧に、卒業研究論文の完成に向けて、一層勉強に努めていただきたいと思います。

(山川栄樹教授)

国際部

マルチリンガルイマージョン学習スペース(Mi-Room)を利用しよう!

Mi-Roomとは異文化コミュニケーションを実体験し、外国語で活動をする機会をキャンパスライフに取り込むことができる外国語学習スペースで、月400人が利用しています。留学生やネイティブの先生と楽しみながら外国語のスキルを高めるプログラムを多数実施しています。https://www.facebook.com/miroom.ku/



(国際部長 前田裕教授)

専門職大学院トピックス

法科大学院

建学の精神に立ち返り、さらなる改革を推進します。

関西大学は、関西法律学校の開校から今年で130周年を迎える伝統を有します。関西大学の建学の精神「正義を権力より護れ」という言葉に象徴されるように、本学における法曹養成の精神は市民に役立つ法律家を生み出すことにあります。この伝統を継承するため、法科大学院は本学の優秀な学生を受け入れることを目的とした「法学部との連携強化」および「早期卒業生特別入学試験の新設」、また、教育の質の向上を目的とした「進級要件の厳格化」、「大阪大学法科大学院との連携」等、改革の取り組みを進めています。これからも、法科大学院は建学の精神「正義を権力より護れ」に立ち返り、さらなる改革に取り組みます。

(法務研究科長 早川徹教授)

会計専門職大学院

梅田キャンパスで講義開始

10月より、会計専門職大学院は、大阪梅田キャンパスで複数の講義を開始しました。ここでは、税務と会計、労務と会計、実践内部統制というテーマで、社会人を対象とした講義を提供しています。一般的な講義のみならず、受講生同士のディスカッションを通じて、実践的な能力の養成が目的です。聴講生も受講可能で、企業の経理や人事労務の担当者には有益な情報提供の場になりますので、興味のある方は今後ご参加いただければ幸いです。

(大西靖教授)



臨床心理専門職大学院

社会的視野を持った心理職の育成

今や、心理士という職種に寄せられる期待は徐々に高くなり、心理臨床の領域は拡大しつつあります。しかし、その専門性や効果は十分知られていないようです。また心理職を、心理テストやカウンセリングだけと捉える見方もまだ根強いようです。この現状を考えると、心理士のおのが技能を高めて、その一方で、その幅広い領域における成果を世に問う努力が求められます。そのため、研究機関に所属する心理士はもちろんですが、現場で働く心理士も研究発表を行う姿勢や、他職種や一般市民に対しても社会における自分たちの位置付けを意識した振る舞いが求められます。本専門職大学院の教員はそうした社会的な視野をも持つ心理士を養成したいと思っています。

(中田行重教授)

なるほど・ザ・関大!

関大生の130年

写真で見た学生の変化

創立130周年。長い歴史の中に見える学生たちのファッションなどの変化を、卒業写真や資料写真などからのぞいてみました。

明治19(1886)年 大阪西区京町堀の願宗寺において関西法律学校を開校

明治30(1897)年 校友会を発足

大正11(1922)年 千里山に学舎を新設
「学の実化」講座を開催
大学令による関西大学として認可され、法学部、商学部と大学予科を設置

大正15(1926)年 第1回大学祭を開催

昭和 2(1927)年 千里山に大学本館を竣工

昭和21(1946)年 女子学生の入学を認めるよう学則を一部改正
法学部に初の女子学生が1人入学

昭和22(1947)年 関西大学教育後援会を設立

昭和30(1955)年 第1学舎を竣工
創立70周年記念式典を挙げる

昭和40(1965)年 関西大学会館を竣工

平成 6(1994)年 高槻キャンパスを開設

平成15(2003)年 関西大学東京センターを開設

平成18(2006)年 総合学生会館メディアパーク凜風館が竣工
関西大学アイスアリーナが竣工

平成20(2008)年 ベルギーのルーヴェン・カトリック大学(現ルーヴェン大学)内に「関西大学日本・EU研究センター」を設置

平成22(2010)年 高槻ミュージックキャンパスを開設
堺キャンパスを開設

平成28(2016)年 梅田キャンパスを開設
イノベーション創生センターを開設
なにわ大阪研究センターを開設



(写真7)

和服から洋服へ

開校後3年の明治22年(1889年)9月16日、第1回卒業式が行われました。卒業生は男性17人。そのうち11人が写った記念写真で明らかに洋服とわかるのは一人だけで、大半が和服です。ところが10年余りたつと洋服派が増えてきます。例えば明治37年(1904年)の卒業写真(写真1)では和服と洋服がそれぞれ半分近くですが、このころになると学生服姿の卒業生も1割ほどいます。



(写真1)

角帽の登場



(写真2)

翌38年(1905年)にはもう一つの変化が見られます。それは角帽(写真2)です。この年、本学は文部省の認可を得て、関西法律学校から「私立関西大学」と改称しました。このころから学生は、最高学府のシンボルとされた角帽をかぶるようになったのです。この年の卒業写真には角帽姿の学生も写っています。

女性の進出

もう一つの大きな変化は大正時代の末期から始まる女性の登場で、これが学内の風景の変化につながっていきます。当時「大学令」などの規制で、男女共学は制度的には戦後昭和21年(1946年)まで待たねばなりません。しかし実質的には大正12年(1923年)、関西大学は女性にも門戸を開放し、最初の聴講生、北村兼子さん(写真3)が法学部に入学しました。北村さんは法科3年在学のまま、大阪朝日新聞の社会部記者に採用され、あっという間に人気記者になりました。



(写真3)



(写真4)

また大正12年には、学外の社会人を対象にした夏期語学講習会も始まりました。男女の別なく受講生を募った結果、この年の参加者は539人にのぼり、うち女性が1割を占めました。第1回の仏語の講習会の記念写真(写真4)には男性27人の前に女性10人が並び、和装が9人、洋装の女性も1人写っています。

ジーンズとミニスカート

女性の進出は戦後の男女共学で一気に加速され、学内の風景もさらに変化します。戦後間もなくは、男女とも制服、かばん姿が目立ちました(写真5)。やがて世の中のファッションの変化が、学内にも強く映し出され、昭和40年(1965年)代からTシャツ、ジーンズ、ミニスカートがはやり始めます。それを示すのが、構内を歩く女子学生の写真(写真6)です。こうしたスタイルはその後キャンパスですっかり定着しました。



(写真5)



(写真6)

一方ここ半世紀、男子学生に圧倒的に支持されているのはジーンズです。1980年代に入って卒業記念写真集の構内風景写真が妙に青みがかってくるのも、男子学生を中心としたジーンズが定着したからです。そして平成の今(写真7)、男女ともさらに个性的に分化し、さらに目まぐるしく変化するように、いったい何が時代の最先端で、何がダサイのか、混然としている昨今です。

生誕・創業130周年！山田耕筰と企業紹介

今年生誕130周年の山田耕筰と、関西大学と同様に、今年創業130周年を迎える企業を紹介します。

関西大学学歌作曲 山田耕筰 生誕130年



創立130年を迎えられる節目に

貴校が本年、創立130年を迎えられたことに心からお喜びを申し上げますとともに、貴校校歌を作曲した山田耕筰の縁によって、「関西大学通信・創立130年記念特集」誌上にお祝い申し上げます。機会をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

奇しくも、本年は山田耕筰の生誕130年でもございます。貴校から「新時代の学歌を、」とご依頼をいただいたとき、山田耕筰はこの偶然に胸をときめかしたに違いありません。貴校学歌が制定された1922年当時は、ニューヨークのカーネギーホールで自作を指揮し世界に踏み出したときであり、帰国後はオーケストラや合唱団の組織化や、北原白秋と「赤い鳥」を創刊するなど、まさに山田が「音楽の実化」を目指していた時期とも重なり、貴校の学歌創作に注いだ思いは格別だったことが想像できます。

交響曲やオペラ、器楽曲や歌曲など、幅広い作品を書いた山田が最も好んで創作した校歌。山田は生前、「校歌の作曲はとて面白くてね。その学校の思想や、その学校を育む土地の匂いがする。民謡とよく似ているんだよ」と語っておりました。単に「詩」を受け取ることに留まらず、何度も貴校を訪問させていただいたことを山田はとて喜んでいただいていたことでしょう。そして、制定から100年近い今日まで貴校ゆかりの多くの方々によって歌い継がれていることを次の世でもきっと誇りにしていると確信いたします。

一般社団法人日本楽劇協会 理事長 山田浩子

(注)日本楽劇協会は山田耕筰が日本で初めてつくった創作的音楽団体で、現在も国内外で山田の創作活動や日本の文化遺産の顕彰活動などを続けています。

株式会社伊勢丹(現 株式会社三越伊勢丹)

1886(明治19)年11月、初代小菅丹治が、呉服太物商「伊勢屋丹治呉服店」を開業したのが伊勢丹の始まりです。その後1930(昭和5)年3月、株式会社伊勢丹を設立し、1933(昭和8)年9月、新宿に本店を開店。2008年(平成20)年4月、株式会社三越と経営統合しました。創業130周年を迎える今年、新宿本店では1月～12月の1年間を通して、各階のプロモーションスペースから屋上まで、全館の情報発信拠点をフル活用したさまざまなイベントを開催しています。



株式会社中日新聞社

中日新聞社は愛知県名古屋市で明治19年に発行された『無題号』、『金城たより』を源流に、戦時下の新聞統合などを経て、日刊紙では「中日新聞」、「東京新聞」、「北陸中日新聞」、「日刊県民福井」、「中日スポーツ」、「東京中日スポーツ」の6媒体、約350万部を発行しています。130周年を機に「いつもそばに これからも」のキャッチコピーとロゴマークを作り、地域読者に寄り添い、ともに発展していくことを目指します。



東海旅客鉄道株式会社(JR東海名古屋駅)

JR東海名古屋駅は明治19年5月1日に開業し(当時:官設鉄道 名護屋駅)、今年で130周年を迎えました。これを記念して当駅では「開業130周年記念イベント」を開催し、記念ロゴの作成や駅内装飾、小学生を対象にした名古屋駅お仕事体験イベントの開催、記念さつぷ発売などを通じ、お客様へ感謝の気持ちをお伝えしました。今後も安全安定輸送の確保を大前提とし、リニア中央新幹線の開業に向け、愛され親しまれる駅づくりを推進します。



三菱鉛筆株式会社

この度は創立130周年おめでとうございます。三菱鉛筆もおかげさまで創業130周年を迎えました。当社は1887年の創業以来、人々の「かく」に貢献するため、常に品質向上と技術革新に努め、筆記具市場をリードするメーカーとして歩んでまいりました。ボールペン「ジェットストリーム」など数々のロングセラーは世界中で多くの方にご愛用いただいています。今後も新製品開発に力を注ぎ「世界一の筆記具メーカー」を目指してまいります。



メルセデス・ベンツ日本株式会社

創業者の一人、カール・ベンツが、ガソリン自動車を発明して今年で130年。メルセデス・ベンツは創業以来、安全性能やデザインを追求し、常に最新・最善のクルマを作り続けてきました。私たちはこれからも、最高のクルマを最高のかたちで日本のお客様にお届けできるよう、皆さまに愛され、選ばれるブランドを目指して走り続けます。



創立130周年 記念事業

特に学生に知ってもらいたい、
主な周年記念事業を紹介します。

梅田キャンパス [KANDAI Me RISE]

阪急「梅田」駅から徒歩5分の好立地・大阪市北区鶴野町に梅田キャンパスを開設。地域・社会人・大学が共に発展できる新たな学びの拠点を目指しています。「TSUTAYA BOOKSTORE」、スターバックス コーヒーの店舗も設置し、多くの人が「集い・賑わう」学内外交流の場を提供します。



スタートアップ支援「スタートアップカフェ」

「スタートアップカフェ」では、本学学生ほか誰でも無料で、常駐するコーディネーターに起業相談が可能。その他スキルアップセミナーや自己啓発セミナー、起業仲間との交流会やビジネスコンテスト等のイベントを実施予定です。

異業種交流サロン「KANDAI Me RISE倶楽部」

本学教職員・校友をはじめ一般の方にも、コワーキングスペースを会員制(有料)にて提供。キャリアアップ・ビジネスに便利な機能として、会議室等の基本設備をはじめ、約2,000冊のライブラリーが利用可能。会員限定のセミナーやワークショップ、研究者紹介のほか会員相互の交流機会も提供します。

社会人教育・生涯学習

文部科学省「社会人学び直し大学院プログラム」に採択された大学院教育プログラムや、社会人を対象に税務・労務・会計・経営に関する講座を開講予定。「KANDAI Me RISEまなびプラザ」では、かつて大阪市内で勤労学生を育んだ天六キャンパス(2014年9月閉鎖)の使命・歴史を今日的に継承して多彩な生涯学習コンテンツも展開します。

キャリアセンター梅田オフィス

梅田スクエアビル内のキャリアセンターを、10月から梅田キャンパスに移設。専門のコウンセラーによる就職相談が受けられるほか、各種証明書・学割証の即時発行など、就職活動におけるあらゆるサービスを受けることができます。

関西大学グローバルフロンティアプログラム(KUGF)の 開発・提供による“次世代グローバルリーダー”の育成

英語で開講する共通教養科目「グローバル科目群」の設置や「グローバル奨学金・援助金」の創設により、本学学生の海外での学習に対する支援と海外からの優秀な留学生の獲得を支援するなど、“次世代グローバルリーダー”の育成に向けた取り組みを推進しています。

なにわ大阪研究センター

長年にわたって本学が集積してきた豊富な地域研究と地域連携の実績を結集し、大阪文化を次世代に継承し発展させることを目的とした研究拠点です。上方演芸の研究部門、デジタルアーカイブ部門、大阪の防災・減災と環境部門など5つの基幹研究部門の方針に沿って、研究活動を展開します。

新アクセスエリア

千里山キャンパスに新たな玄関口「新アクセスエリア」を開設しました。これまで、阪急「関大前」駅からは2つの通学路がありましたが、25,000人超の学生が通うため、通学時の混雑や交通事故の危険性など課題を抱えていました。新アクセスエリアは、北口改札出ですぐの「西門」から第3学舎へと続く通学路で、エスカレーターや憩いの広場や、植樹による緑のキャンパス空間を演出。学生・地域住民の利便性・快適性を高め、安全・安心で人に優しいアプローチを造り出しています。関大前通りの交通事故防止と混雑緩和のため、ぜひご利用ください。



を演出。学生・地域住民の利便性・快適性を高め、安全・安心で人に優しいアプローチを造り出しています。関大前通りの交通事故防止と混雑緩和のため、ぜひご利用ください。

イノベーション創生センター



産学官連携による新研究拠点として千里山キャンパスに開設。理工系学部と人文・社会系学部の対話による事業化に向けたアイデアの創出、最先端の研究装置群を活用した企業とのプロジェクト研

究、ベンチャー・起業支援などを展開し、本格的なイノベーションの創出を目指します。施設内には、企業や研究機関等が入居する実験・研究エリア、対話スペースや起業準備のためのベンチャーオフィスなどを設置。研究者や学生による交流・ディスカッション等の場である1階カフェには、スターバックス コーヒーの店舗が設置されているほか、多彩なプレゼンテーションを実施できるレセプションスペースも設けています。

関西大学「学縁」給付奨学金制度・ 奨学生会「葦の葉倶楽部」

学が意欲はあるが経済的理由により修学が困難な学生に対し支援する、“経済支援”に重点を置いた「関西大学「学縁」給付奨学金制度」を構築。また、現役奨学生と卒業生・修了生を会員とする「学縁」を形成するコミュニティとして、奨学生会「葦の葉倶楽部」を設立しました。今後は、本学を卒業・修了した奨学生を主たる対象として寄付募集を行い、現役の奨学生を支援することで、奨学生同士や卒業生・修了生との縦横無尽の交流“縁”を創出します。

関西大学カイザーズクラブ

特定非営利活動法人関西大学カイザーズ総合型地域スポーツ・文化クラブ(NPO法人関西大学カイザーズクラブ)は、関西大学の知財・人材・施設を地域に還元するスポーツ・文化スクールです。子供や地域住民を対象に、サッカー、アイスホッケー、チアダンス、スケートクラブの4スクールを開講。地域貢献活動を通じて、学生のフロンティアスピリットを育てています。

❖ 関大生からのメッセージ ❖

創立130周年を記念して、関大生からメッセージを集めました。

社会安全学部 2年次生 上野 奈緒さん

関西大学は私に新たな出会いをたくさん与えてくれました。共に学び、また楽しい時を共に過ごす友人。多くの知識を授けてくれる教授達。素敵な毎日を送っています。人と人の距離がとても近い、そんな関西大学が私は大好きです。



商学部 4年次生 中谷 崇人さん

たくさんの方がいて、たくさんの学び、人との交わりが生まれる関西大学に入学することができて良かったと感じています。これからも活気のある学生が関西大学を通して活躍していく伝統が未長く続きますよう願っています。



総合情報学部 2年次生 梅本 彩香さん

関西大学は素敵なおとこです。1つ例をあげると学生に活気があるところ。すべての学生がなにか自分のしたいことに対して、とても真剣に全力を注いでいます。それはサークル活動や部活動、さまざまな形ではありますが、それぞれが真剣です。そんなところが関大の素敵なおとこだと思います。



商学部 3年次生 中山 愛深さん

私は留学や海外へのインターンシップなど、多くの挑戦ができる関西大学にとっても感謝しています。そして、次の世代、その次の世代の学生にもターニングポイントとなるような機会を与え続けることで、より多くの学生をそれぞれの道へと導くことができる大学であり続けてほしいと思います。



法学部 4年次生 尾山 佑介さん

私はこの4年間を体育会で過ごし、多くの仲間に出会いました。楽しい時、苦しい時、常に私のそばには仲間がいました。この関西大学にはこれから先、人生の友と出会える。そんな場所であり続けて欲しいと思います。



外国語学部 3年次生 橋本 あかねさん

図書館裏の滝が大好きです。気持ちがモヤモヤしている時や、授業に疲れた時、何か悩み事がある時はいつもこの場所で深呼吸してリラックスしています！この嬉しい場所がこれから先もずっと残りますように。



社会学部 4年次生 川東 奈那子さん

私は入試説明会で関大を訪れ、校風と明るく元氣な学生に一目惚れして進学を決めました。大好きな関大だったからこそ何事も積極的に行動し、価値ある大学生生活を送ってこれたと思います。140周年も150周年も関大が大好きな学生で溢れる関西大学でありますように。



法学部 3年次生 福留 耀さん

関大は、優しいです。知識、友達、部活の仲間、将来の夢、色んなものをくれました。楽しい学生生活という掛け替えのないプレゼントを、毎日贈ってくれます。これからも沢山の愛を学生に注ぐ、「親」のような存在であり続けてほしいです。



政策創造学部 3年次生 小早川 祐佳さん

関大は、終わらないと聞きます。私の母も30年ほど前は関大生でした。そして今、娘である私が関大生としてキャンパスライフを楽しんでいます。こういう関大サイクルが今後も続いていくといいなと思います。



文学部 2年次生 松本 千広さん

オープンキャンパスに際して触れた、活気ある関大の雰囲気惹かれて入学を決めました。多様な興味関心に応えていただけるため、さまざまな活動に取り組むことができ、毎日充実しています。今後長く、学生の「自主自立」の基になっていただきたいです。



総合情報学部 3年次生 小山 歩美さん

関大の良い所といえば“学生の雰囲気が良い所”です。私は高校生の時、オープンキャンパスに来て関大生の雰囲気の良さに惹かれて入学しました。今でも関大生の雰囲気は大好きで毎日元気をもらっています！



化学生命工学部 2年次生 油井 輝陽さん

私が関西大学の好きなおとこ、それは学内のどこにいても緑が見えるところ。悠久の庭・あすかの庭・道の端に植えられた木々、山の頂上にある学校なのもあって、自然な緑がいっぱいあるのが好きなおとこです！



経済学部 1年次生 坂根 翔大さん

関大の好きなおとこは、学部もたくさんあるので自分が学びたいものを学べるという部分です。部活やサークルもたくさんあり、体育会として活動している部活は「カイザーズ」という一つのチームとして関大を全国に広めていく意識で日々練習に取り組んでいるので、とても熱中できるおとこです。



人間健康学部 2年次生 吉村 優希さん

自身を知り、自分のために学ぶ、勉強だけにとらわれずあらゆる方向の中で自分の可能性を信じて行動する力を育む。そのような大学であってほしいです。表面的なものではなく、もっと自分の中にある本質的なものを知る。そんなきっかけを与えてくれる大学であってほしいと思います。



学長、理事長と学生が語る “これからの関西大学”



明治19(1886)年、関西初の法律学校として生まれた関西大学は今年、創立130周年。この節目の年を記念し、芝井敬司学長、池内啓三理事長と学生2人による座談会で、伝統ある関西大学の未来、理想の姿について意見交換がされました。

学長、理事長から見る関西大学と関大生への思い



関西大学 芝井敬司学長

芝井学長 関西大学に限らず現在の日本の大学生は、現役の18歳で入学し、大学院への進学者を除けば、ほとんどが4年で卒業します。18から22歳までの限られた年齢層だけが通う日本での“普通”は世界では決して“普通”ではありません。学生の皆さんには就職し、社会に出てから将来またどこかで大学に戻ってほしいと思います。できれば関大に、もちろんそれ以外の大学であっても。長い人生の中で、きっとまた“学び”の場が必要になることもあるはず。私たちは関西大学を、そういう人のための受け皿になり得る大学にしたいと思っています。

池内理事長 130年という大変長い歴史の中で、関西大学のこの10年間は、まず女子学生の増加があり、政策創造学部、外国語学部、社会安全学部、人間健康学部の開設など、著しい変化を遂げています。そして130周年に向けて私たちが取り組んだイノベーション創生センターや梅田キャンパスの開設は、これからの日本の大学が世界で競争していくために求められる取り組みの一つと言えるでしょう。イノベーション創生センターでは、企業とのプロジェクト研究・起業支援などを展開し、産学官連携の共同研究拠点を、梅田キャンパスは、社会人の“学び直し”の場としても対応できるキャンパスを目指しています。例えば、大学を卒業して20年経てば生活や環境も変化し、その変化に呼応し、もう一度大学で学び、また社会に、ということが必要になるかもしれません。それにこれからは一般企業への就職だけではなく、起業の道も考えられます。

関西大学だからこそ得ることができた力とは

辻野 私は今、大学院に在籍していますが、学部生の頃はトライアスロンに取り組んでいました。高校までの陸上部の経験を生かしつつ新しい挑戦ができると思ったのがきっかけです。特に水泳が苦手だった私は課題を見つけ、解決策を見だし、タイムを伸ばしました。また大学院では教授から「大学での研究活動で一番重要なのは社会に出てからPDCA(計画、実行、評価、改善)を円滑に実施できるようになること」と教えていただいたので、難しいことですが、身につけるべき能力と考え、PDCAを特に大切にしています。関西大学で取り組んだトライ

アスロンも研究活動も、自分で考えて行動に移すという部分は同じです。私はこの力を大学で培うことができたのではないかと考えています。

中澤 外国語学部の私は2年次のStudy Abroadプログラムでの留学時、アメリカでの生活や世界各国から来た留学生との交流から、異文化への理解を深めました。言語だけを学ぶのであれば、大学内だけでも可能ですが、日本では知る機会の少ない文化や価値観に触れる経験は、関西大学だからできたのだと思います。外国語学部では1年次の時から留学に向けて論理的に考える力、ビジネスに使えるプレゼンテーションの準備の授業などがたくさんあり、実用的な英語力を身につけることができました。海外でグローバルに活躍できる企業で働きたい、勉強している英語、ロシア語、アラビア語を生かしながら、能力を高められる仕事に就きたいと一層思うようになったのは、やはり留学で就職への価値観にも変化があったからだと思います。



中澤愛実さん
外国語学部4年次生
三井石油開発株式会社内定

関西大学の魅力と強み 教育・研究の場と人の力

学長 関西大学は非常に人が多い。人数の多さは場合によってはマイナスに働くこともありますが、たくさんの人がいるという点には面白さがあります。特に千里山キャンパスは、多彩な学問分野が同じ場所に混在しているため、小規模な集団の中で過ごす学生と比べ、多様な人の中で刺激を受けて過ごす4年間では大きな差が生まれます。例えば「文理融合型プロジェクト」として、理工系学部の研究成果・技術をシーズに、文学部学生の商品開発およびビジネスプランを考え、商品化された事例もあります。これは、キャンパスに「たくさんの人がいる面白さ」の典型と言えるでしょう。ましてや、45万人近い校友がいるわけですから、卒業してからも意外なところで関西大学出身者との「楽しい出会い」があるはず。

今後さらにグローバル化が進みます。大学の国際化やグローバル人材の育成にありますが、具体性をもって取り組まなければうまく推進できません。その点、1年間の海外留学が必須の外国語学部はその環境が整っています。留学先を選定し、提携大学との交渉の末、このシステムは成り立つため、先生方にも一生懸命頑張ってもらっています。現在、8カ国1地域の13大学と交渉、

契約、協定を結んで、学生を送り出す体制が整っているので、恵まれた環境と言えるでしょう。こうした先行的取り組みをうまく利用しながら、グローバル化対応や各種教育のあり方、短期留学のシステム、あるいは海外留学生との共同作業、国際インターンシップなどを少しずつ拡大していく。将来、世界で競争しなければならない、国内だけでは通用しない時期が目前に迫っていることを考えれば、関大生には絶対に身につけてほしい能力・経験と言えます。

理事長 海外協定大学との交渉に時間がかかりましたが、学生交換協定も、25以上の国や地域の大学と締結し、うまく運用されています。留学生別科も開設し、これも高い評価を得ています。
学長 留学生対象の寮も満室に近い状態が続き、着実にキャンパスのグローバル化は図れています。もう一段、ランクアップしたいところです。



関西大学 池内啓三理事長

理事長 昔と比べると、今の関西大学はダイバーシティが魅力。特に千里山キャンパスのように、これだけ多くの学部を1つのキャンパスに設置している大学は希少で、たくさんの人が多様な交流をしています。

長く、夜間部(第2部)の学びの場として利用されていた天六キャンパスでは、学ぶことに熱心な学生が多く、瞳の輝きが違いました。その天六の灯りを消すことなく残したい、働きながらも学ぶ意欲を持った、多様な人が集まる教育の場にしたいとの思いが、今年10月にオープンした梅田キャンパスへとつながったのです。

辻野 私は関大のすぐ活発なところに魅力を感じます。クラブ・サークル活動もそうですが、特に就職活動での面接やグループディスカッションで、関大生の積極性を感じました。

中澤 関大の魅力を一語で言うと“人”。人数ですが教員や職員の方との距離や同学年との絆などつながりが深いと思います。ロシア語の先生には授業外で教えていただいたり、キャリアセンターでは大勢の学生がいるにもかかわらず、職員の方は顔を覚え親身になって対応していただきました。

これからの関西大学 進化・発展の姿

辻野 学生の力をより一層引き出せる大学になってほしいと思います。イノベーション創生センターは、学内にとどまらず企業や研究機関とのつながり

ができるので、とても期待しています。

理事長 今の学生には昔のような“やんちゃ”がない。もっと自己主張をして学生パワーを発揮してほしい。その要望、要求を吸い上げることで変革して、より良い大学にしていきたいと思っています。

学長 ラーニング・コモンズなど学生が自主的に活動できる場を提供しているので、自主・自治の活動ができる学生になってほしいですね。

中澤 私はグローバル化を進め、留学に限らず、内向きではなくいろいろな人と交流できる、外に目を向けた大学になることを希望します。

学長 セミ・研究活動で海外に学生を連れて行くと、舗装されていない道路や土埃を不衛生に感じたり、現地ならではの食事が食べられず、「二度と行きたくない」と口にする学生もいると耳にします。

理事長 恵まれ過ぎた環境にいて、順応力が低下しつつあるのでしょうか。また、ペーパーテストは得意だけど、話すことは得意ではない、コミュニケーション能力が乏しく、指示がなければ何もできない自主性のない学生もいるでしょう。そういった一部の学生をどのように成長させていくのが課題になりそうです。

辻野 今、学生に求められていることは何なのでしょうか。

学長 自分が成長することに責任を持ってほしいですね。そのためには、自主性を持ち、他者にアドバイスを求め、そして努力することが必要です。関西大学での4年間でしっかり力をつけ社会で活躍してもらうことを願っています。自分が求めていることを実現するのは何のためか、よく考えて学生時代を過ごしてほしい。大学は、精神面・知識面でも成長が必要な時期を過ごすため、正課・正課外ともに豊かな環境を守り育てたいと思っています。

理事長 2008年に「社会を見つめ、変化に挑む。『動』する関大人が世界を拓く。」というスローガンのもと10年間の長期ビジョンを策定しました。やらされているうちは何も実らない。指示待ちの受け身ではだめだということです。今年73歳の私は物のない時代に育ちました。高度経済成長期を経て、物が溢れていることが果たして幸せなのか疑問に感じます。若い世代には本当の意味での“豊かさ”や人の幸せとは何かを考え、自分なりの答えを見つけてほしいと思います。



辻野元大さん
理工学研究科・システム理工学専攻M2
トヨタ自動車株式会社内定



Kandai Style

2016.11 Vol.454
関西大学通信

関西大学 創立130周年特集



関西大学通信“KANDAI STYLE”

発行日:2016年11月2日(年9回発行)

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)